

令和5年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(英語科) 教科主任名 久保田隆夫

★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	前半～9月			後半～1月			次年度に向けて
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	まとめ
知識・技能	1年	定期考査の達成度は77%だった。多くの生徒は英語の発音につまづいていないが、英単語を難なく書ける生徒は多くない。	音声から文字への移行を意識した授業展開が必要である。スモールステップで英単語の小テストや、長期休暇明けにはスプリングコンテストを実施し、英単語の定着を図る。	1年			
	2年	定期考査の達成度は61.5%だった。1年次に比べると、英単語を書く力が付いてきたが、文法の知識が十分に身に付いていない生徒もいる。	単語の定着を図るために継続的に単語テストを実施する。また文法の知識の定着を図るために、夏季休暇明けに既習文法の構文テストを実施する。	2年			
	3年	期末考査の達成度は53%だった。文法の基礎は身に付いていても、応用的な内容になると正確に答えられない生徒が少なくない。	2学期は関係代名詞の学習で一層文法が複雑になるので、基礎→発展と小テスト等を積み重ねながら、使える文法知識を定着させる。	3年			
思考・判断・表現	1年	定期考査の達成度は62%だった。知識・技能の定着が課題で表現につながらない生徒が多い。特に英作文などに課題が見られる。	基礎的な学習を繰り返し、表現活動を授業に組みこむ。教科書の内容を演じさせたり、ペアで会話活動をさせたりする。	1年			
	2年	定期考査の達成度は59%だった。長文の読解力は少しずつ身に付いている。既習文法を生かし自ら表現する力が十分に身に付いていない生徒がいる。	既習文法の復習や既習文法を使って表現する力を養うために、英作文指導の時間を多く取り入れ、間違いを恐れず自らの力で英文を書く機会を増やす。	2年			
	3年	定期考査の達成度は68%だった。長文の読解力はかなり身に付きつつある。既習文法を生かし自ら表現する力が十分に身に付いていないといえる。	今後も長文読解の機会を増やし、速読の力をつけていく。また、小テーマで英語の作文を書く練習を積み重ね、入試を踏まえた自己表現力の育成を図る。	3年			
主体的に学習に取り組む態度	1年	発表活動で発音や態度において不十分な生徒がいる。主体的に家庭学習に取り組む生徒が少ない。	発話のしやすい環境を授業のあいさつから作っていく。発表などの活動の機会を増やしたり、ワークでの家庭学習を促したりして、学習への主体性の伸ばす。	1年			
	2年	1年次に比べ、家庭学習や課題の提出にも意欲的に取り組むようになってきたが、授業内での発表活動などに主体的に取り組む姿勢が不十分な生徒がいる。	引き続きノートづくりやワークなどの復習を促し、課題提出に課題へ呼びかけていく。発表活動においても、練習の時間を十分に確保し自信をもって発表できるように促していく。	2年			
	3年	発言はやや消極的だが、やりとりのグループワークやスライドを用いた発表などの学習課題には主体的に取り組む生徒が多い。即興性を高めていくことが課題である。	生徒が意欲的に取り組み、入試への対応力も伸ばせる学習課題をさらに工夫していく。即興性は繰り返しトレーニングを行うことで養成していきたい。	3年			